

たまたれ

通巻 第32号



「おくんち」の社殿

ご挨拶

宮司 竹間 宗磨

先日まで夏の暑さ厳しき日々でしたが、朝夕涼しくなり秋の深まりを感じる頃となりました。

関東地方を始め各所での大雨洪水、九州では噴火等、自然災害の被災の皆様には一日も早い復興をお祈り致します。さて、当社では間もなく秋の実りを祝う年間祭事の中でも重儀であります「おくんち」を迎えます。常の御神恩に感謝申し上げ、多くの皆様の御参拝をお待ち申し上げております。

更に十月二十七日には、いよいよ、この度の御社殿お屋根葺替え工事に伴い、高良大神様には仮の御殿にお遷り戴く仮殿遷座祭をお仕え申し上げるべく、職員一同その準備に努めておる次第です。大神様の御神威の蘇り、そして更なる御神徳の拝受を願い、郷土の文化財、心の拠り所の継承と共に受け継ぎ、後の世に伝えるために一人でも多くの方々と共に歩ませて頂きたく、何卒皆様のご篤志、ご協力ご支援を切にお願い申し上げご挨拶と致します。

たまたれ

高良山くんちについて



弓馬術同門会による弓道百々手式と弓道大会などが行われます。

高良山くんちの「くんち」とは、「おくにち（御九日）」のことですが、かつては旧暦の九月九日に行われていたお祭りでした。おくんちは、

秋の収穫を祝う秋祭りと、陽数（奇数）の極である九が重なる吉日で、我が国で古くから祝日とされた

祭りであり、高良の神様が御鎮座されたと伝わる特別な日です。高良山で秋の大祭といえば、古くは



百々手式 小笠原流弓馬術同門会

高良山くんち（おくんち）は高良大社の年間行事の中で最も大きなお祭りで、十月九日の例大祭に始まり、十日の崇敬会大祭、十日の観月祭まで、例年三日間の日程で行われます。

おくんちの期間中、久留米喜多流奉賛会の謡曲や高良山十景舞、表千家不白流九州支部による献茶式が祭典にて奉納され、さらに観月祭の催事も含めて多くの神賑行事があります。また、おくんち期間の前後には、剣道大会、さつき盆栽秋季展、生け花展、各種武道の演武や高良山獅子、風流、民謡、和太鼓、鼓舞、また小笠原流

弓馬術同門会による弓道百々手式と弓道大会などが行われます。

高良山くんちの「くんち」とは、「おくにち（御九日）」のことですが、かつては旧暦の九月九日に行われていたお祭りでした。おくんちは、秋の収穫を祝う秋祭りと、陽数（奇数）の極である九が重なる吉日で、我が国で古くから祝日とされた祭りであり、高良の神様が御鎮座されたと伝わる特別な日です。高良山で秋の大祭といえば、古くは

旧暦の十月に行われていた御神幸祭でしたが、規模が大きいため途絶えがちになり、江戸時代には時期的に近い旧暦の九月九日に始まり、十日の崇敬会大祭、十日の観月祭まで、例年三日間の日程で行われます。

おくんちの期間中、久留米喜多流奉賛会の謡曲や高良山十景舞、表千家不白流九州支部による献茶式・野点拝服席



野点拝服席

崇敬会大祭 午前十時三十分
献茶式・野点拝服席
表千家不白流九州支部



例大祭 参進

神生祭 午前零時
例大祭 午前十時三十分
謡曲奉納 久留米喜多流奉賛会
舞奉納 高良山十景舞保存会

十月九日(金)

くんち日程

十月十一日(日)

第二十五回 観月祭 午後六時



仕舞 久留米喜多流奉賛会

観月祭奉納行事

本殿

午後六時三十分～七時三十分

●仕舞 久留米喜多流奉賛会

●詩吟 生田流正派

●琵琶 筑前琵琶保存会

●箏曲 加藤城勲師

●詩吟 錦城流

●筝曲 生田流正派

●境內特設舞台

午後七時四十分～九時

●柳川日吉太鼓

●雅楽 高良大社雅楽同好会

●和太鼓 御井鼓舞組

たまたれ



小学生から高校生の313名の
剣士達が熱戦を繰り広げました

第十五回高良山剣道大会
境内特設剣道場

◆九月十三日(日)

神賑行事



柳川日吉太鼓

●御茶席奉仕
表千家北村宗孝社中

久留米にわか
久留米にわか保存会
日吉ぎんなん社中



空手奉納演武

新極真会佐賀筑後支部
久留米道場

●午前十一時三十分より
日向ひよつとこ踊り
ときめき会
境内特設舞台

◆十月九日(金)～十一日(日)
第十六回嵯峨御流生け花展
華道嵯峨御流諸岡社中
中門内展示場

◆十月一日(金)～四日(日)
第十六回さつき盆栽秋季展
さつき盆栽趣味の会
中門内展示場

●午前十一時より
高良山獅子・風流
高良山同志会
御井町風流保存会
境内特設舞台



福岡県及び近県より参加の老若男女による熱戦が繰り広げられます

◆十月十一日(月)
午前九時より
百々手式
小笠原流弓馬術同門会
境内特設弓道場

第四十五回高良山弓道大会
久留米弓道連盟

古武道棒術
神影流心氣道棒術
和太鼓奉納
筑水高校太鼓同好会



民謡奉納



御井町風流

仮殿遷座祭について



国指定重要文化財の御社殿は、昭和四十九年から五十一年に解体修复工事を行つてより約四年の歳月が過ぎ、屋根部分に傷みが進行し雨漏りの危険性が指摘されるなど限度を超えるため、屋根葺替工事を実施することとなりました。



こけら葺き屋根

下遷宮とも称します。反対に仮殿より本殿へ遷御申し上げる祭祀を本殿遷座祭・正遷座・上遷宮と称します。本来、遷宮の名称は伊勢の神宮に限つて用いる名であり、現在各社でも遷宮を用いていますことは、古儀では本来避ける名称でありますので、当社では遷座祭と称します。

仮殿は假殿であり、本殿の修理、その他の事情にて靈代を臨時に奉安（御安置申し上げること）する仮の社殿のことと、一般には「かりでん」と称します。また権殿とも称し「ごんでん・かりどの」と読みます。

仮殿は本殿の近くに設けますが、この度も前回に倣い御社殿向かつて左奥の神輿庫を用います。

こちらに神様には屋根葺替え工事中、御鎮まり戴くべく内部を設え申し上げます。神輿庫前には日々神饌（神様のお食事）を献じるための幣殿を、その前方には各祭典ご祈祷のおり皆様方に拝礼戴くための仮の拝殿を設けます。

施工に際しては、神殿に鎮まります神様の頭上に上るのは畏れ多い事として、神様には一旦、仮の御殿にお移り戴き、その上で着工となります。

仮殿遷座祭とは本殿より仮殿へ靈代（御神体）を遷御（靈代をお遷しすること）する祭祀であり、工となります。

こちらでこの秋より二年間あまり祭典ご祈祷をお仕え申し上げる事となります。

仮殿建設を始め、遷座祭に伴う諸祭典の準備を進めており、「おくんち」を過ぎますと、いよいよ本格化してまいります。



①仮遷座祭 祝詞奏上(本殿)

あり、お仕えする宮司以下神職一同の「清祓」が執行され、「入斎」といい社外に出す言動、食事等制限し、ひたすら大神様の御神威に適うります。当日十月二十七日の夕闇、時刻になりますと、宮司以下祭員は祓を修し、本殿にて、宮司が大神様に仮殿へお遷り願う祝詞を奏上致します①。いよいよ遷座祭の重儀「遷御」は明かりを消し、「淨闘」の中、「絹垣」にて人の目を憚り、松明の明かりと「オー」という「警蹕」が周囲の緊張を高める中、大神様には仮殿へとお進みになられ②、「入御」なさいますと、お食事「神饌」を大前に献じ③、仮殿に御鎮まり戴き変わらぬ御神徳を願う祝詞が奏上され④、奉拝参列者の拝礼があります。



仮殿計画



仮殿内観



④祝詞奏上（仮殿）



③献饌（仮殿）



②遷御

この度の仮殿遷座祭斎行の後に
社殿屋根葺替工事が始まります。
工事に伴ない御参拝の皆様には
何かと御不自由をお掛けするこ
ととなります。

先ず御参拝は、これまで中門の内
にお入り戴き、御社殿前にての拝
礼でしたが、工事中は中門前にて
の拝礼となります。

工事の足場組み立てによる危険
防止から本殿裏側の摂社高良御
子神社以下末社の真根子神社、印
鑰神社、市恵比須神社の各社の前
で直接お参りすることが出来な
くなります。従いまして中門に摂
末社各社の遙拝所を設けますので、
こちらから遙かに拝礼戴くこと
となります。

また、宝物館前の境内駐車場も
仮殿建設に伴い駐車台数が限ら
れますので、車のお祓いの方、体
の御不自由の方以外の皆様には
他所の駐車場をご利用戴きます。

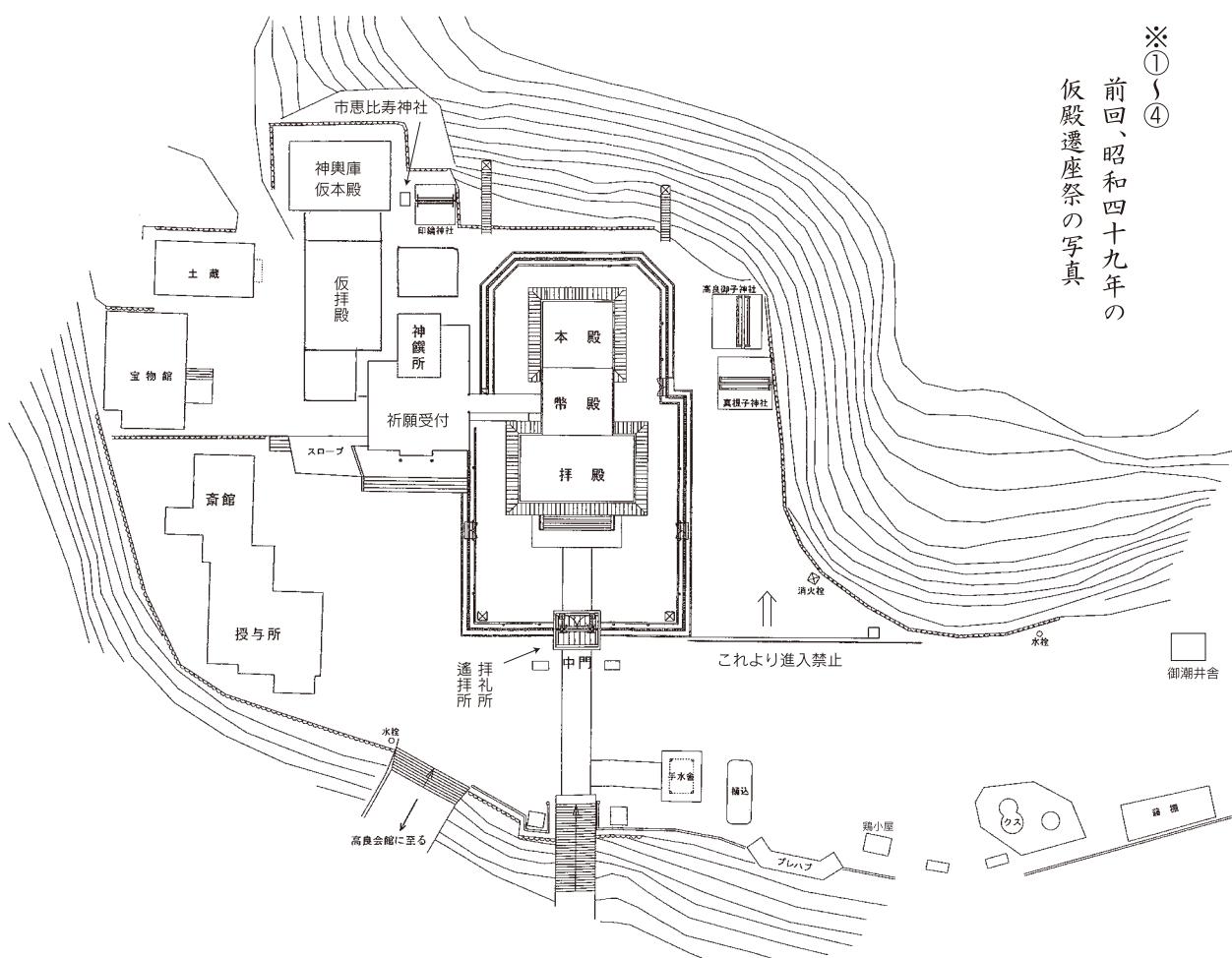
その他各所の変更につきまし
ては、その都度に看板等を設置し
ご案内申し上げます。

七五三、お正月等には警備員を
配置致します。工事期間約二年間
に亘り、祭典・ご祈願が仮殿での
奉仕となりますこと、また御参拝
に御不便、御不自由をお掛け致し
ますことをお詫び申し上げ何卒

ご理解とご協力を賜りますよう
お願い申し上げます。

権禰宜 松本 長人

※①～④
前回、昭和四十九年の
仮殿遷座祭の写真



祭事のご案内 [十月中旬～十一月]

十月二十七日、仮殿遷座祭以降約一年間、本殿奉仕しております。何卒ご賛同賜りますよう御願い申し上げます。

◎大学稻荷神社秋季大祭(末社)

十月十六日

高良山中腹に鎮座する筑後地区で一番大きな稻荷社の秋祭りが、大勢の参拝者参列のもと斎行されます。

◎山川招魂社秋季大祭

十月二十日

旧久留米領内出身者をはじめ祖國の為に斃れた方々の英靈をお祀りする山川招魂社にて秋季大祭が斎行されます。



山川招魂社

◎明治祭

十一月三日

我が国を近代化へと導かれた明治天皇の御聖徳を仰ぎ皇室国家の繁栄を祈念致します。



昨年の大前。本年は仮殿での奉仕となります。

◎摸末社例祭

十一月十三日

境内に鎮座する三社、高良山内外に鎮座する六社の例祭を斎行致します。

◎七五三祝祭

十一月十五日

月次祭に併せ、今年七五三祝を迎えるお子様の健やかな成長をお祈り致します。

◎新嘗祭

十一月二十三日

宮中および全国神社で行われる新穀感謝祭です。高良大社では、献米世話人のご協力により近郷各地から新米が奉納され、本年の豊かな稔りへの感謝を申し上げます。



大学稻荷神社 冬籠祭

◎鎮火祭

十二月一日

日々の生活に不可欠な火の恵みに感謝し、同時に火による災いがないように祈るお祭りです。祭典後は、消防署の指導の下、職員の消火訓練、救命訓練を実施します。

◎古神札焼納祭

十二月三十日

この一年お護りいただいた神札をお守りに感謝申し上げ焼納する神事です。

◎年越大祓式・除夜祭

十二月三十一日

大祓式は、日々の生活の中知らず識らずに犯した罪穢れを、人形に移して心身を祓い清める神事です。また今年最後の祭典である除夜祭は、来し方に感謝し、佳き年を迎えるように祈念致します。



年越大祓式

◎もみじ狩り

十一月二十二日

高良山中腹の紅葉谷で行われる秋の恒例行事です。御井校区まちづくり振興会・高良山の森と環境を守る会が中心となり催事を盛り上げ、多くの方で賑わいます。

◎煤払祭

十二月二十二日

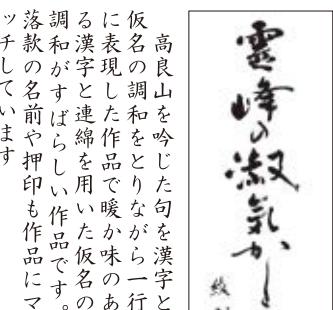
社殿での祭典後、宮司以下神職が笹箆にて社殿の煤を払い、新しい年を迎える準備を致します。



福岡県知事賞
小学二年
浅川 愛香



高良大社崇敬会会長賞
中学三年
木下 莉恵



高良大社宮司賞
高校三年
若菜 綾



久留米市長賞
中学二年
原 夏希



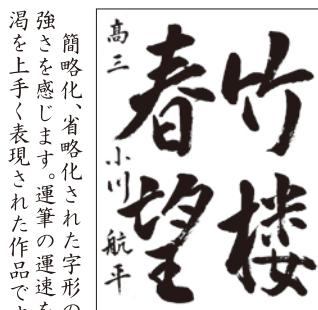
久留米市長賞
小学四年
江口 ゆめ



福岡県議会議長賞
小学一年
横溝 英梨



上海堂賞
小学五年
安部 鈴加



西日本新聞社賞
高校三年
小川 航平



久留米市議会議長賞
中学一年
北原 積木



久留米市議会議長賞
小学六年
金山 美奈

始筆(筆の入り方)や終筆(筆の止め方)が自然で送筆(筆の運び方)に勢いがあり筆の抜き方も堂々としていて、おおらかさと文字の広がりを感じさせる作品です。

どっしどとした筆遣いで重厚な表現されています。潤滑を活かし、かすれやにじみがよく出ている作品です。

全体的に筆圧がよくかかり、重厚な表現を目指した作品です。画数が多い右半分と太細の変化を上手く利用して完成させました。

以上三十四名が上位賞を受賞されました

字配りが難しい課題を余白を上手く表現しながら、はねやはらいが伸び伸びと書かれています。「光」や「社」の横画の長さに気を配りながら構成された作品です。

簡略化、省略化された字形の中に、線の力強さを感じます。運筆の運速を交え、墨の潤渴を上手く表現された作品です。

前漢（BC200年）～後漢（220年）に書かれた隸書風で、逆入歳鋒や波磔の特徴を上手く表現した作品です。横画や転折（折れ）の太細の変化を出し、メリハリのある作品になりました。名前も堂々としています。

高良大社賞
ゆめタウン賞

書風で、逆入歳鋒や波磔の特徴を上手く表現した作品です。特に右払いや左払いを強調しながら、大胆で力強い表現になりました。

前漢（BC200年）～後漢（220年）に書かれた隸書風で、逆入歳鋒や波磔の特徴を上手く表現した作品です。特に右払いや左払いを強調しながら、大胆で力強い表現になりました。

審査委員長賞
高校三年
森川 侑紀



ひらがなの持つやわらかさと曲線をおおらかに書き止めやはらい、点なども丁寧で画と画とのつながり（筆脈）もきちんととれている作品です。又、筆の返しやまとめ方も技術的に見ても大変良く出来ています。



硯山賞
小学三年
菱田 るな

恒例の高良山書道展・書道上達祈願祭・表彰式が七月二十日に行われました。七百四十三点の作品が寄せられ、諸石祥雲審査委員長以下五名の審査委員により各賞が選出されました。

講評 審査委員長 諸石 祥雲（南筑高校講師）先生



第四十四回 高良山書道展

高良山通信

◆高良大社兼務神社

総代会・総会開催



名月（参拝者撮影）

たまたれ
来る七月十三日（月）、山川校区
コミュニティセンター二階大
ホールに於いて、平成二十七年度
の高良大社兼務神社総代会が開
催されました。

当日は十六社の兼務社から、二
十六名が出席。竹間宗磨代表役員
宮司が議長に選出され、議事が行
われました。協議事項全て承認を
受け、その他の事項説明も滞り無く、
次期輪番高良内校区代表高良内
八幡神社責任役員藤吉和弘氏が
挨拶を述べられ、無事閉会と相成
りました。

夏越大祓式 六月三十日
今年半年間の日々の暮らしの
中で、岡らずも犯してしまった罪・
穢れを人形に移して、祓い清め神
事を斎行いたしました。

献灯祭 八月一日
社殿前の百三十一段の石段両
脇の灯籠奉納者の事業安泰、益々
の繁栄をお祈りいたしました。

川渡祭（へこかき祭）

六月一日・二日

茅の輪くぐり神事、赤い肌物を
身に着けての御祈祷により、心身
を祓い清め、無病息災をお祈りいたしました。



茅の輪くぐり神事

◆祭事報告



模範演武

◆篤志奉納

鹿子嶋 俊平 様

神恩感謝の真心により、ご篤志
奉納がございました。
有難く拝受致しました。

◆訃報

生田流正派大師範 中村雅樂

芙美師が八月十七日に帰幽され
ました。

当社の観月祭奉納行事に、第一
回から二十四年間に亘り、多大な
ご尽力を賜りました。

ここに生前の篤きご敬心の念
に深く感謝申し上げ、衷心より哀
悼の意を表します。

奉納剣道大会 九月十三日

久留米市内各地の小中高校の
剣士が、境内にて剣を交え、神慮
を和めんがための、剣道大会を奉
納いたしました。

高良の大神様は月の神様である
という伝説があります。神功皇
后様が、空に向かってお祈りさ
れると、白雲が四方に開き、光
を放つて月神が現れたと。
古来より日本人は、様々な思
いをもつて月を眺めてきましたよ
うです。平安時代の貴族の恋心を
託す歌や、中世の世捨て人の孤
独な志操を慰める歌など、時代
の移り変わりとともに、月への
感じかたも変わっていきます。

私も宿直の見廻りの際に、よ
く月を眺めています。ここ高良
山にて眺める月は、月神の伝説
により、また高良山の悠久の歴
史により、私に人間としての根
源的な「あはれ」の心を想い起
こさせてくれるようになります。

このような時代だからこそ、人
間としての生の真心を忘れぬよ
うに、高良山の自然に感謝しつ
つご奉仕申し上げたく思います。

権禰宜 緒方翔馬

鎮守の杜

「たまたれ」 通巻三十二号

平成二十七年十月一日発行

発行者／高良大社社務所
福岡県久留米市御井町一番地
電話〇九四二一四三一四八九三
FAX〇九四二一四三一四九三六